No.10

*Newsletter of Scientific Information Program*
*Tokyo University of Agriculture*

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

# 学術情報課程通信

## 農 タネから考える文化財的価値

教職・学術情報課程主任　入江 憲治

今年も大学の試験圃場からイネのタネを収穫した。約1万年前に始まった農耕以降、私たちはタネを連綿と受け継いできている。私たちの祖先は、野生の植物から食用となるタネを採取し食用にするとともに、残ったタネは捨てられ次の年に発芽し、あるいは意図的に蒔かれ、秋には稔りが得られるようになり、それを貯蔵して人は冬でも食物を確保できるようになった。農耕の始まりはこのような光景だったのであろう。野生植物から栽培植物へ栽培化が始まると、長い年月の中で植物集団の中から、種子が沢山つくとか果実が大きいとかという個体を選ぶようになり、現在の作物に改良されてきた。作物が起源地から世界各地に伝播していく際には、各伝播地の農業環境に適応し、地域の食文化とも密接に関係しながら、在来品種となっている。このような自然選択と人為選抜の所産である伝統的な在来品種には、収量や品質に関する特性はもとより、耐病性・耐虫性や環境ストレス耐性などに関する有用遺伝子が蓄積されている。そのような品種は遺伝資源と呼ばれ、品種改良の遺伝素材となり、新品種が作られてゆく。

私たちは、農耕開始以降、約5500種の植物を栽培し利用してきた。しかし近代農業の発展とともに、今日では世界人口の食事エネルギー必要量の90％は、わずか30種の作物によってまかなわれ、いわゆる作物の種類、品種は画一化され多様性が小さくなっている。食料の効化率を求める余り、エネルギー効率の良いコメ、トウモロコシ、コムギを中心とした食料生産は、先進国、途上国問わず栄養の過剰摂取による肥満症、高血圧症、糖尿病といった病気を引き起こしている。その解決策として、栄養価が高く評価されている種々の作物を食生活に導入し多様化させ、その食料消費を通じて栄養価を向上させることが提唱されている。人類が農耕の歴史の中で育んできた農業生物多様性の基底であるタネは、世界中のジーンバンクに740万点が保存されている。

「種を制するものは世界を制する」と言われるようになって久しくなるが、最近、タネを取り巻く状況が騒がしい。種子法が廃止され、種苗法が改正され、一部の品種において農家の自家採種ができなくなるなど、タネの扱いについて大きく注目された。タネは商業的性質を有する一面も持っている。多面性を持つタネについて、中尾佐助は『栽培植物と農耕の起源』の中で、作物の品種は文化財であると意義づけ、生きている文化財を先祖から受け継ぎ、それを育て子孫に手渡していくことの大切さを説いている。

## 令和2年度 資格取得状況

東京農業大学 資格取得者数

| 学 部 | 農学部 | 応用生物科学部 | 生命科学部 | 地域環境科学部 | 国際食料情報学部 | 生物産業学部 | 科目等履修生 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学芸員 | 84 | 17 | 46 | 53 | 18 | 15 | 4 | 237 |
| 司 書 | 36 | 11 | 17 | 22 | 12 | ― | 0 | 98 |

## 令和3年度 学芸員・司書関連新規就職先一覧

令和4年2月現在

| | | 学 科 | 就職先 |
|---|---|---|---|
| 現役 | 学芸員 | 動物科学科 | 那須サファリパーク |
| | | 動物科学科 | 公益財団法人 横浜市緑の協会（臨時） |
| | | 森林科学科 | 株式会社 地域環境計画 |
| | | 国際農業開発学科 | 一般社団法人 農山漁村文化協会 |
| | | 分子微生物学科 | イカリ消毒 株式会社 |
| | | アクアバイオ学科 | アクアワールド茨城県大洗水族館 |
| | 司書 | 造園科学科 | 株式会社 映像センター |

関連組織に新しく就職された方は、是非、下記までご一報ください。

| | | 学 科 | 就職先 |
|---|---|---|---|
| 既卒者 | 学芸員 | 平成18年度卒 大学院農学研究科 | 鳥取県立博物館 |
| | | 平成23年度卒 科目等履修生 | 南アルプス市ふるさと文化伝承館 |
| | | 平成28年度卒 生物生産学科 | 名護自然動植物公園（株式会社ネオパークオキナワ） |
| | | 平成29年度卒 畜産学科 | 板橋こども動物園 |
| | | 平成30年度卒 畜産学科 | 鎌倉公園（株式会社生態計画研究所） |
| | | 平成31年度卒 造園科学科 | 小岩井農場（小岩井農牧株式会社環境緑化部） |
| | 司書 | 平成24年度卒 森林総合科学科 | 足利市立図書館（会計年度任用職員） |
| | | 平成31年度卒 畜産学科 | 青森県立図書館（嘱託） |
| | IT関係企業 | 農学科、バイオセラピー学科、森林総合科学科、醸造科学科、地域創成科学科、バイオサイエンス学科、分子生命化学科、分子微生物学科、食品安全健康学科、食料環境経済学科 計14名（令和3年4月現在） | |

## 農事遺産⑩ ―農大古農具コレクション

ダラとは人糞肥のことで、それを農地に運ぶために使用するのがダラ桶である。これは細長い板を縦に筒形に並べて底をつけ、竹を細く割き編み輪にした「タガ」で締めて作った桶である。水洗トイレや、汲み取り用トラックでの運搬が普及していなかった、昭和40年代頃まで農村で使用されていた。

地域によって様々なダラ桶がある。縦に長く桶の底が細くなっており、一見、人糞肥を運ぶ桶とは思えないほど美しく気品さえ伝わってくる。子供の頃、母が厠でダラを汲み取りダラ桶を背負い、畑に運んでいた。それを姉と二人で鼻を摘まみながら追いかけた記憶がある。

博物館実習の授業でダラ桶について、その記憶を交えて解説したときだった。都会出身のある女子学生が突然「ワー凄いエコ！」と叫んだ。化学肥料が導入される以前の、忘れかけていた農の原点を想い出させる一言だった。（Y）

ダラ桶　岩手県花泉町　1980年収集
高さ68.5㎝、最大巾（上部の蓋）30.8㎝、最小巾（底部）22.0㎝、檜材。

表紙　The Royal Bengal Tiger『Universal System of Natural History』
1794-1796 London.　銅版手彩色　学術情報課程蔵

学術情報課程通信　第10号
*GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN*

東京農業大学
学術情報課程　発行

〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1−1−1
電話　03-5477-2533

レイアウト・印刷／共立印刷株式会社
令和4年（2022）年2月28日　発行

https://www.nodai.ac.jp/academics/info/

## 編集後記

農大は創立130周年を迎え、「食と農」の博物館で特別展が開催されている。展示資料の中には東京高等農学校時代の明治38年、横井時敬教頭からの図書の寄贈に対し、田中芳男校長が送った謝状がある。簡素ではあるが大学昇格を目指し、農大図書室が歩みだした往時を偲ばせる。節目の年に改めて先人に思いを巡らせてみたい。（R）

# 学生インタビュー　先輩の来た道　第七回

TAKAO 599 MUSEUM 副館長
古茂田 慎也　Shinya KOMOTA
1989年　茨城県生まれ
2012年　東京農業大学 国際農業開発学科卒業
2016年　TAKAO 599 MUSEUM 学芸員、現在に至る。

## 「あんまり競うのが好きじゃないんですよ。それだったら子供と虫捕りしている方が楽しいかな。」

### 学生時代〜学芸員資格を取得するまで

**——在学中はどのような学生時代を過ごされましたか**

国際ボランティアの勉強がしたくて入ったのですが、途中でやる気をなくしてしまって（笑）。そこからはどちらかというと学校の勉強ではなくて部活を一所懸命やっていました。写真部に入って写真ばかりをやっている生活で、決して優秀な生徒ではなかったと思います。

**——学術情報課程は取られていたんですよね**

取っていましたが、落としました（笑）。大学4年間では学芸員資格を取れなくて、卒業後に科目履修生として農大に戻ってきました。またカリキュラムが変わり学部4年間に取った単位が全部0になってしまったので、フリーターをしながら資格を取得しました。

**——お仕事をしながら科目履修生として授業を受けるのは大変でしたか**

中古書業界でアルバイトをしながら科目履修生として在籍していたので、学部生と一緒に授業を受けていました。いつも遅刻ギリギリでしたね（笑）。18時からの6限に間に合うように、仕事を17時に切り上げて、急いで学校に行くという日々でした。大変でしたが、楽しかったです。

**——学芸員課程で印象に残っている授業はありますか**

骨格標本が好きなので、イノシシの頭骨を清掃する授業が楽しかったです。アクリル樹脂標本をつくる授業もあったのですが、高尾599ミュージアムのメイン展示がアクリル樹脂標本なので縁を感じたのを、よく覚えています。

**——当時から授業の課題は多く出されていましたか**

長期休暇期間に博物館を見学するレポート課題がありましたね。複数館行かないと行けなかったように思います。

**——その課題は今でもあります。現役生は原稿用紙に手書きでのレポート提出なのですが…**

当時も手書きでした。今も手書きなのですね（笑）。

**——学生時代にやっておいて良かったと思うことはありますか**

当時厚木キャンパスに在籍されていた先生と2週間、中国の壁画の撮影に行ったことです。新疆ウイグル自治区の仏教寺院の宗教壁画に関する研究に同行したのですが、研究事業に関わった仕事がしたいと思うきっかけになりました。

### 現職（高尾599ミュージアム）のお話

**——現在のお仕事内容を教えてください**

基本的には、インフォメーションでのお客様対応と館内での展示解説がメインの仕事です。それに加えて、広報業務や、企画展の企画立案もしています。また、八王子市役所との公共的なやり取りなど、何でもやっています。でも、あくまでメインの業務としては展示の解説を念頭に置いています。あとは、お客様の質問に正確に答えられるよう勉強し続けられるかどうかかな…個人的には本を読むのが仕事だと思っていますが、なかなか時間が取れなですね。

**——このお仕事をしていてやりがいを感じるのはどのような時ですか**

年代を問わず、お客様がインフォメーションにもう一度来てくださるととても嬉しいですね。一度ご質問にお答えして、後日「この虫見ました」とか、「このお花見たのですけど」と言ってまた来ていただけると大変ありがたいです。この前教わった虫のことをちゃんと覚えられた、というような報告をしてくださったり、お花の名前がわかるようになったと言ってくださる時は良かったなと思います。

**——学芸員の仕事をする上で大切にしていることはありますか**

間違った知識を教えないということは、非常に大切にしています。でも、同時にそれが絶対ではないということも常に意識しておかないといけないと思っています。あまり頭が凝り固まると良くないと思います。

**——古茂田さんにとって学芸員の仕事とは何ですか**

一生、勉強していられる仕事だと思います。どの仕事に就いても、そうでしょうけど、自分が興味あることを勉強し続けることができる仕事だと思っています。世の中には知らないことの方が多いですからね。

### 現役生へのメッセージ

**——最後に一言、農大生へのメッセージをお願いします**

遠回りはいくらしても良いと思いますので、焦らずゆっくりやってください、ということです。私は遠回りを何回もしていますが、だからこそ今、ここで充実して働けています。足並みを揃えて就活しなくても良いのではないかと思います。

取材　寺井水萌（森林総合科学科4年）
　　　増田絵夢（国際バイオビジネス学科4年）

# 学術情報課程で学んだ柔軟性

玉井 泰人　Yasuto TAMAI
1997年　千葉県生まれ
2020年　森林総合科学科卒業
2020年　海老名市立中央図書館（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社公共サービス事業部）司書

小学生の頃、映画の「ナイトミュージアム」を見て、博物館で働いてみたいと漠然と思っていました。学術情報課程の説明会で聞いた、学芸員と司書の2つの資格を取得すると就職活動で有利に働くことがあるという言葉に惹かれ両方の資格の取得を目指しました。卒業後、本来は別の仕事につく予定でしたが、コロナ渦の影響を受け、現在は神奈川県の海老名市にある、海老名市立中央図書館で司書として勤務しています。

私は主に館内イベントの担当として、ワークショップや講演会等の企画運営を行っています。初めのうちは、新型コロナ ウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の影響で図書館内でのイベントが制限されていたこともあり、慣れるまでに時間がかかりましたが、今では1からイベントを企画し、開催することができるようになりました。図書業務では、自分の担当するジャンル資料の選書を行い、利用者のニーズに応えることができるよう業務にあたっています。

図書館で勤務し始めて私が感じたことは、「柔軟性」の大切さです。司書としての仕事だけではなく、イベントの業務や施設管理業務など様々な業務があり、司書としてイメージするようなもの以外にも行う必要があります。時には、自分の適性に合っていない業務であったとしても高いクオリティで行う必要がある為「柔軟性」を必要とする場面が多いからです。

幅広い業務を行っていく中では、学術情報課程で学んだ様々なことを思い出します。イベントの企画やテーマを決めて本を選書しフェアを行うときは、学芸員の授業で企画展を考えたこと、利用者からレファレンスを受けるときは司書の情報サービス演習の授業を思い出します。例え学芸員の仕事を行っていなくても学術情報課程で受けた授業は様々な業務を行う中で活かす場所が必ず出てきます。

これから、学生時代に学んだことを基本にして、立派な司書になれるよう努力をし続けていきたいと思います。

# 星空の学芸員

相澤 南美　Minami AIZAWA
1992年　東京都生まれ
2014年　森林総合科学科卒
2018年　府中市郷土の森博物館 学芸員
（株式会社五藤光学研究所 所属）

府中市郷土の森博物館は、旧石器時代から人が暮らし、武蔵国の国府もあった府中市の歴史や文化、自然を学べる総合博物館です。東京ドーム3個分の敷地に市内の歴史的な建物を移築・復元して街並みを再現しているほか、千本の梅や1万株の紫陽花など、四季折々の花も楽しんで頂けます。

私の働く天文企画・交流係では、プラネタリウム番組の制作・投映、観望会や天文普及イベントの企画・運営、天文分野の展示企画も行います。プラネタリウムは2018年に全面リニューアルされ、1億個の星を映し出せる最新式の投映機も導入されました。当館オリジナルの生解説番組は、美しい星空を満喫できる、と幅広い世代の方から好評です。生演奏と星空のコラボを楽しめる星空コンサートも毎回完売する人気イベントで、私の担当企画の一つです。毎日の投映やイベントを実施しながら、次の企画の準備も進めるため目まぐるしいですが、自分達で作った企画を自らお客さんへお届けし、直に反応を見られるところにとてもやりがいを感じています。

実は大学卒業後、数年間は林業職の公務員をしていました。そこでも沢山の事を学ばせていただきましたが、段々と学芸員として理科の教育普及に携わりたいという思いが強くなり、退職。学童クラブのアルバイトをしながら職を探していたところ、幼少から親しんだ博物館でもある当館の募集を見つけました。ところがそれまで植物分野にいたため、天文は全くの初心者で、知っているのは北斗七星ぐらい。だめで元々、と応募しましたが、結果、採用となりました。意欲と、子供に携わる仕事の実績を買ってもらえたのかもしれません。もちろんその後は天文・宇宙について、基礎から勉強となりましたが、今では四季の星々の魅力をひととおり解説できるようになりました。

まだまだ駆け出しですが、天文や宇宙の素敵さ・面白さを感じてもらい、星空を見上げてみようかなと思ってもらえる企画ができるよう、これからも学んでいきたいと思います。